

第 62 回 日本生殖医学会学術集会

P-063

山口県 2017. 11. 16-17

conventional-IVF における自宅採精の許容時間の検討

村山未来¹ 佐藤学¹ 橋本周¹ 中岡義晴¹ 森本義晴²

¹IVF なんばクリニック ²HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】当院では体外受精において自宅から精液を持参する場合、2 時間以内に持参することを推奨しているが、実際には 2 時間以内に精液を持参することが難しい場合がある。そこで体外受精における自宅採精の持ちこむ許容時間の推定を目的に採精から処理開始または媒精までの時間と受精率の関連を調べた。

【方法】2015 年 1 月から 2016 年 12 月において conventional-IVF を実施した患者 769 名を対象に、採精時間から精液処理開始までの時間が 1 時間未満、1-2 時間、2-3 時間、3 時間以上、精子処理開始から授精までが 2 時間未満、2-3 時間、3-4 時間、4 時間以上、採精から媒精までの時間が 3 時間未満、3-5 時間、5-7 時間、7 時間以上の群に分けそれぞれ受精率を比較した。

【結果】採精から処理開始までが 3 時間以上かかった群では他の群に比べて有意に受精率が低下した (61% vs 74-77%, $P < 0.01$)。処理開始から受精まで 4 時間以上かかった群では他の群に比べて受精率が有意に低下した (72% vs 76-79%, $P < 0.01$)。採精から授精までが 7 時間以上かかった群では他の群に比べて有意に受精率が低下した (69% vs 74-79%, $P < 0.01$)。

【考察】採精から受精まで時間がかかるほど受精率は低下した。自宅採精の場合 3 時間以内に持ちこみ処理を速やかに開始することが望ましい。採精から 3 時間以内に精液処理を開始し、精液処理開始から 4 時間以内に媒精を行うこと、そして採精から媒精までを 7 時間以内に行うことで受精率低下を防ぐことが出来ると考えられる。